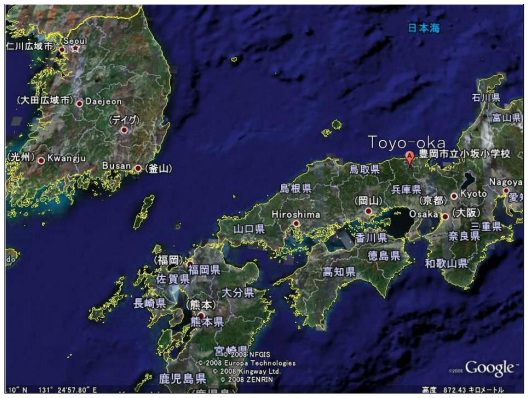
（水嶋）私たちは、兵庫県豊岡市からやってきた小坂小学校の６年生と城崎小学校の５年生です。



私たちが住んでいる豊岡市はここです。韓国と日本はおとなりどうしですし、豊岡も釜山から決して遠い町ではありません。

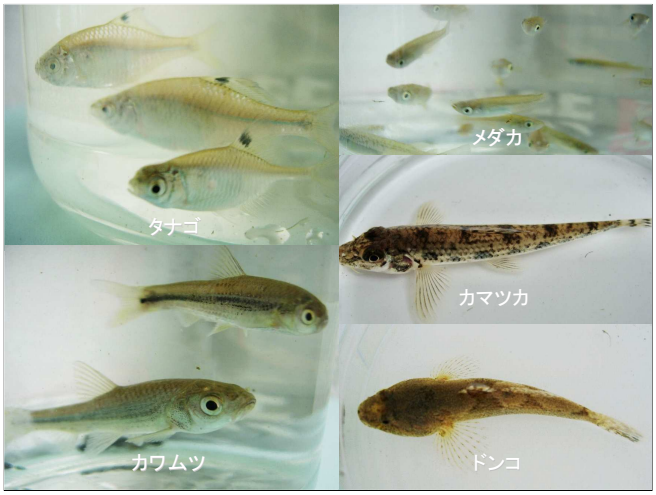
豊岡市は町の真ん中を円山川や出石川など、大きく美しい川が流れていて、まわりには田んぼや山が広がっており、自然が豊かなところです。

（篠原）私たちがコウノトリの学習を始めたきっかけは、４年生にもどります。戸島湿地の工事をするのに、湿地にすむ魚に被害があるので、魚の救出大作戦をしました。

小さな水そうには、フナやメダカ、手長エビなど、たくさんの生きものがいて、それを種類別に分け、安全な場所に保護しました。

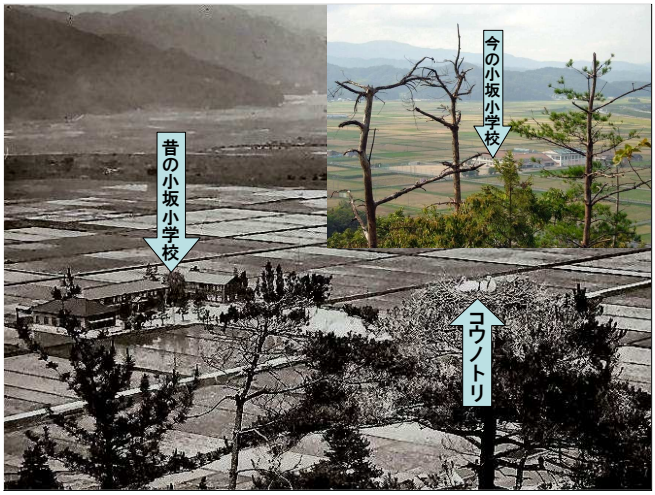
これは、一すくいでとれた大ナマズです。なんと６５ひきもいます。

フナはほんの一すくいで５００ぴきもとれました。このように、戸島湿地にはコウノトリのエサとなる生き物がたくさんいることがわかりました。

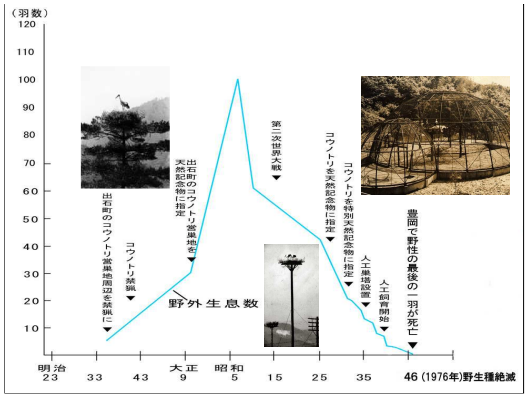


（森田）小坂小学校でも、田んぼや水路で生き物調べをしました。ザリガニ、タニシ、カエルなどはたくさん見つけました。ホウネンエビやカブトエビは初めて捕まえました。メダカ，タナゴ、カワムツ、ドンコなど，たくさんの魚も見つけました。

このように、たくさんの生きものがすむ豊岡には、冬になるとエサを求めて、マガモやコガモなどの水鳥がよくやってきます。



２００７年、私たちは５年生になって、コウノトリの野生復帰についての勉強を始めました。５０年ほど昔、コウノトリはあたりまえのようにいて、小坂小学校のそばの森井山にも巣をかけていたそうです。



ところが、６０年ほど前をさかいに、コウノトリの数はどんどん減っていきました。そして、１９７１年，昭和４６年には一羽も居なくなりました。生き残ったのはケージの中で飼育しているコウノトリだけになってしまいました。

＜ほろびた理由＞

①鉄砲での乱獲

②松の木のばっ採

③畑や田んぼの整備

④農薬の使用

（水嶋）ほろびた理由は４つあります。

１つ目は、鉄砲での乱獲です。その羽根を求めてたくさんのコウノトリが殺されました。

２つ目は、松の木のばっ採です。それによって、コウノトリは巣を作れなくなりました。

３つ目は、畑や田んぼの整備でそれと同時に

４つ目、　農薬の使用によりコウノトリのエサとなる生きものが少なくなってしまいました。

豊岡の人たちはコウノトリをまもるため、１９６５年からケージのなかで人工飼育を始めましが、２４年間、ヒナは一羽も育ちませんでした。１９８９年になって始めてヒナがかえり巣立ちました。

２００５年、９月２４日、いよいよコウノトリの放鳥がはじまりました。３４年ぶりに、再びコウノトリが大空を舞い始めました。

コウノトリふえる

それから毎年放鳥が続けられ、今では２０羽のコウノトリが豊岡の空を飛んでいます。小坂田んぼにも棲みついています。

（高宮）ここでちょっと一息。ふるさと自慢の時間です。ぼくたちが住む城崎は温泉が有名で、毎年たくさんの観光客が訪れます。そんな城崎とコウノトリは切っても切れない関係があります。

大昔、コウノトリが足の傷をいやしたことから発見されたのが「鴻の湯」だと言われています。１４００年前もの昔から、城崎とコウノトリはつながっていたのですね。

今では、町のあちこちにコウノトリの像が建てられていて、城崎温泉とコウノトリとのつながりがわかります。

そんなコウノトリとつながりのある城崎ですが、この写真を見てください。これは川の上流から流されてきた大量のゴミの写真です。どれも人間が出したゴミばかりです。

コウノトリは「城崎」のココがすき！

- エサとなる生きものがたくさんいる
- 静かな環境（かんきょう）
- 木や川、田んぼなど、自然が豊か
- 広い場所→巣づくり、子育てに向いている

（篠原）このように、たくさんのゴミが流れ着いている城崎ですが、コウノトリはそんな城崎のどこを好きになったんだろうと考えました。それは、城崎にはコウノトリのエサとなる魚やヘビがたくさんいるからです。また、静かにしようと努力する町の人たちがたくさんいるからです。そのほかにも、豊かな自然、巣作りや子育てに向いている広い場所がたくさんあります。

もっと好きになってもらうためには…

- ゴミを捨てない
- 松の木を増やす
- ほかの生きものにとっても住みやすい環境づくり

でも、もっと好きになってくれるためには、ゴミのポイ捨てをやめたり、松の木を増やしたりして、他の生きものにとってもすみやすい環境づくりを目指したいです。

ところで、コウノトリがすみやすい環境ってどんなだろう？「静かな環境」ってどれくらい？ぎもんに思った私たちは、コウノトリのもとへ調査に行きました。テーマは、コウノトリと音との関係です。

コウノトリと音との関係

ヤッホー！

何人までいけるかな！？

１人目！！

あれっ、飛んじゃった！

《わかったこと》

声にビックリしたのではなく、
人の多さに驚いて飛び立った

（児島）予想では、コウノトリは大きい声や音が苦手なのかなあと考えました。そこで、次のような実験をしました。コウノトリに向かってさけぶ人を１人ずつ増やしていき、何人さけんだところで飛び立つかを調べました。すると、１人がさけんだところであっけなく飛んでいってしまいました。

そこでわかったことは、コウノトリは声におどろいたのではなく、４０人という人の多さにおどろいたということです。そのときの、わたしたちとコウノトリとの距離をはかると、１２１ｍでした。

聞き取り調査②

・エサを待っていて、すぐに食べに来た。
・約5メートルまで近づいてきた。
・そのときは少人数だった

《わかったこと》

・音や動いているものがきらい
・大人数で近づくと飛んでいってしまう

ところが、コウノトリのお世話をしている人に聞き取り調査をすると、５ｍまで近づいてエサを取りに来たそうです。これらのことから、大きな声を出さなくても、大人数で近付くとコウノトリは警戒してしまうことがわかりました。また、普段からお世話をして見慣れている人にはコウノトリの方から近寄ってくるなど、人なつこく、好奇心おうせいな面もあることがわかりました。

コウノトリと人間が
いっしょに暮らしていくために…

《明日からできること》

小坂小学校の取り組み

（森田）それでは、コウノトリと人間がいっしょに暮らしていくために明日からできることは何でしょう。それを実践している「小坂小学校」の取り組みをご紹介します。

私たちは、コウノトリも棲める小坂にするためには、川と田んぼ、田んぼと山のつながりが大切だと考えました。私たちは、魚道を作って田んぼと川をつなぎ、冬にも田んぼの水を張ります。コウノトリが巣をかけられるように、山にマツを植えました。田んぼと山が緑でつながってほしいです。

（水嶋）また、小坂地区ではコウノトリのエサ場になるように、コウノトリ育む農法が始まりました。コウノトリを絶滅させた原因である農薬を使わず、自然にやさしい方法で米作りをすることで、エサになる生き物がふえることを、わたしたちも勉強させて頂きました。

「豊岡」の未来予想図

- 自然がいっぱい
- ゴミがない
- 当たり前のようにコウノトリが豊岡の空を飛んでいる

（篠原）このように、明日からできる取り組みを続け、少しでもコウノトリにとってすみやすい環境をつくりたいです。

（高宮）そして、ぼくたちが２０才になるころには、自然がいっぱいでゴミがなく、豊岡の空を当たり前のようにコウノトリが羽ばたいていたらいいと思います。

（水嶋）コウノトリが舞い、たくさんの水鳥たちがやってくる小坂田んぼをこれからも大切にしたいです。

（森田）人とコウノトリがともに暮らす豊岡盆地は自然が豊かなウエットランドです。私たちは、このすばらしい自然環境をこれからもずっと守っていきたいです。

（児島）これで豊岡市からやってきた城崎小学校と小坂小学校の発表をおわります。聞いていただきありがとうございました。